

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2008～2012
課題番号：20730388
研究課題名 (和文) 障害者の自立生活を支える環境整備のための福祉教育
：DET によるエンパワメント過程
研究課題名 (英文)

研究代表者
三島 亜紀子 (MISHIMA AKIKO)
東大阪大学・こども学部・准教授
研究者番号：30352545

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
キーワード：障害者・自立生活・福祉教育・DET・エンパワメント

1. 研究計画の概要

DETとは、Disability Equality Trainingの略記で、障害平等研修などと訳されている。DETは障害者と関わる人々が、社会の差別的な慣習の本質を理解し、何をなすべきであるのかを明らかにすることを目的に、障害者本人の手によって計画・立案されるものである。講義に加え事例検討やロールプレイ、行動計画作成などで構成され、グループワークを中心にした、いわゆる参加型のトレーニングが基本となっている。

いっぽう障害者をはじめ社会的弱者が地域生活を営むための社会環境づくりとして、福祉教育の試みが多様な形でなされてきた。地域住民・生徒・学生などに対する参加型のワークショップなどもそれに含まれる。本研究は、こうした試みの蓄積を踏まえたうえで、障害者の自立生活を支える環境を整えることを視野に DET に関する認識を深め障害者のエンパワメントを促進することを目的とする。

以下は本研究の具体的な目的である。

- (1)実践の現場を調査することによって、DETの手法を明らかにする。
- (2)エンパワメントを推進するDETを実施するため、実践を重ねることによって推敲し、実用的なマニュアルを作成する。
- (3)DETの思想的・政治的背景を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

上記「研究計画の概要」に即して述べる。

(1)はイギリスでDETを実践している個人や団体への聞き取り調査をおこない、論文にまとめた。またイギリスやアメリカの障害者

関連団体が販売するDVDやCD、パワーポイントなどにまとめられた教材がある。これらを取り寄せ、現在は分析中である。

(2)イギリスで実践されているDETには、日本人になじまないプログラムもある。このため、DETの価値や思想を重視しつつ、日本人が親しみやすいプログラム・アクティビティの開発を進めてきた。こうした試みの一つが絵本の出版である。今年度中に2冊目を発行する予定であるが、全3冊の刊行を目指している。

参加型のワークショップのあり方についても学びをすすめてきた。さまざまな団体が提供するワークショップに参加したり、授業のなかで実際におこなったりと研鑽を積んできた。こうしたことを踏まえた、参加型のワークショップに特化した書籍の出版計画がある。

最後の(3)は、(1)や(2)の研究を進めるなかで明らかにする予定であった。これについて考察はしているものの、まだ論文や図書の形で成果を出すことはしていない。(3)については、(1)と(2)の目的を達成した後に取り組む予定である。

3. 現在までの達成度

「②おおむね順調に進展している」に相当すると思われる。

その理由として、本研究の成果の一部は発表・出版を通して当初の計画通りに進んでいる点あげられる。しかしながらDETの研究で得られた知見をもとにアジアで活用するDETの開発・実施という計画はまだ未達成である。

4. 今後の研究の推進方策

研究を進めていくうち、当初想定していなかった展開が見られた。たとえば教材としての絵本の出版がある。また絵本の監修者である平下耕三氏が代表を務める大阪の自立生活センター「夢宙センター」に「劇団夢屋」（研究代表者は劇化や上演には関与せず）が結成され同絵本の劇を上演するなど広がりが見られた。

また、イギリスにおける調査を通じて DET が障害者にとっての就業の機会になっている実態を目の当たりにし、そうした可能性を日本で追求することが真のエンパワメントにつながるのではないかと考えるようになった。

こうしたなか、性急に他のアジアの国々における DET の開発・実施に踏み切るよりも、日本における DET のアクティビティ・プログラムの開発、日本の障害者が DET を担う際に必要とされるであろう教材のモデル作成など、支援体制作りに貢献する方向に進むほうが望ましいと思いついた。

今後、上記 3 つの研究目的に沿いながら、アジアの国々における DET の開発・実施を視野に、まずは日本における普及を目標に計画を進めていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 小山聡子・三島亜紀子・松岡克尚・松田博幸、障害学とソーシャルワーク、障害学研究、7 号、13-51、2011 年、査読無
- ② 三島亜紀子、障害平等研修 (DET: Disability Equality Training) と日本の福祉教育への示唆——その理念と特長、東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要、7 号、1-8、査読無
- ③ 三島亜紀子、障害平等研修 (DET: Disability Equality Training) と日本の福祉教育への示唆——イギリスにおける実践の事例、東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要、7 号、9-17、査読無

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 三島亜紀子、障害平等研修、日本質的心理学会大会外研究会、平成 23 年 2 月 5 日、京都文教大学
- ② 三島亜紀子、障害平等研修の実際——イギリスにおける個人や団体の取り組みを例に、日本社会福祉学会第 57 回大会、平成 21 年 10 月 11 日、法政大学
- ③ 三島亜紀子、障害学とソーシャルワーク、

〔図書〕(計 3 件)

- ① 三島亜紀子、明石書店、「障害者ソーシャルワークの提案する専門家像——フレックスナーの専門職論の呪縛から離れて」横須賀俊司・松岡克尚編著『障害者ソーシャルワークへのアプローチ——その構築と実践におけるジレンマ』2011 年、93-132 頁
- ② 平下耕三監修・三島亜紀子 (文)・みしまえつこ (絵)、生活書院、妖怪バリアーをやっつける!——きりふだは、障害の社会モデル、53 頁、2010 年
- ③ 倉本智明監修・三島亜紀子 (文)・みしまえつこ (絵)、生活書院、高原列車にのって、2011 年出版予定